

補助金・交付金チェックシート (No.1)

補助金名 (交付金名)	道南銀鈴会運営費補助金	開始 年 度	昭和59年度
団 体 名	道南銀鈴会		
助成の根拠規定等 (条例・規則・要綱等)	函館市補助金等交付規則		

○補助事業の内容および目的・効果

内 容	発声練習例会，特別発声教室，会報の発行，研修会への参加，各病院の咽頭摘出患者への慰問と激励等
目 的	(目 的) 北海道南部における咽頭摘出者の発声練習に関する研究及び指導並びに福祉向上を図ること
・ 効 果	(効 果) 発声指導員の資質の向上，発声指導員増による訓練体制の強化および各病院との連携の強化

○補助事業の収支状況

(単位：千円)

	年 度	助 成 金		事業収入	会 費	繰越金	寄付金・ 雑収入	計
		市	その他					
収 入	26	50	350	0	120	0	240	760
	27	50	350	0	108	0	252	760
	28	50	350	0	114	0	246	760
	29	50	350	0	111	0	249	760
	30	50	350	0	114	0	246	760
支 出	年 度	人件費	事務費	事業費	上部団体 負担金等	雑費	交際費	計
	26	0	161	399	44	91	65	760
	27	0	151	381	63	105	60	760
	28	0	138	399	63	100	60	760
	29	0	117	445	63	95	40	760
	30	0	192	345	63	100	60	760

補助金・交付金チェックシート (No.2)

補助金名 (交付金名)	道南銀鈴会運営費補助金
----------------	-------------

○基本的視点の再チェック

基本的視点		適	不適	説明
1	公益性 (明確な公益性があるか) ①広く市民生活の向上に貢献する事業 ②市民ニーズが高い事業	☒ ☒ ☒	☐ ☐ ☐	咽喉摘出者の発声技術向上や、交流による意欲増強、社会復帰の推進を目指している
2	必要性 (補助しなければならない事業であるか)	☒	☐	声を失った障がい者に対し、有効な訓練を指導することにより発声機能の回復が図られる
3	自主性 (自主自立に向け努力しているか)	☒	☐	発声訓練等に必要な物品販売等に取り組んでいる
4	有効性 (他の手法ではなく補助することが、施策目的実現に最適か)	☒	☐	発声技術は特異なものであり、容易に他の手法で賄えるものでなく、障がい者の社会参加や自立更生の向上に寄与している

※適・不適であっても、説明欄は必ず記載してください。

○財政的視点のチェック

財政的視点		不適	不適の場合の理由と今後の対応について
1	積算内訳は、前年踏襲となっていないか	☐	
2	補助金等の使途は適切である	☐	
3	積算基準は定められている	☐	
4	補助割合は、補助対象経費の1/2以内である	☐	
5	前年度繰越金は生じていないか	☐	
6	自主財源の確保に努めている (最低でも前年度の収入を確保しているか)	☐	
7	経常経費の節減に努めているか	☐	

※不適の場合は、説明欄に必ず記載してください。

補助金・交付金チェックシート (No.3)

補助金名 (交付金名)	道南銀鈴会運営費補助金
----------------	-------------

○補助効果の検証

(効果測定方法, 具体的な数値等)
発声教室の開催, 広報活動, 研修会参加等

(達成状況)
発声教室は月に4回のほか, 年2回の特別発声訓練教室, 研修や連合会への出席等の活動を行っており, これらを継続することによって, 発声技術の向上を図り, 咽頭摘出者の支えとなり, 社会生活の一助となっている

※継続事業は, 直近の実績 新規事業は, 効果のみ記載してください。

(評 価)	(理 由)
十分効果をあげている ☐	発声訓練や研修会などを通じて, 咽頭摘出者の意欲を喚起し, 社会復帰を推進している
一定の効果をあげている ☒	
効果が疑問である ☐	
その他 ☐	

○今後の方向性

☒ 現行のまま補助を継続	(見直しの内容) (見直しの時期)
☐ 見直したうえで補助を継続	
☐ 廃止	
☐ その他	

(廃止の理由)	(その他の内容)
(廃止の時期)	

○終期の設定

終期設定	☐ 終期到来により廃止	次回チェック年度(予定)
3 年	☒ 終期到来時に再検討	

令和3年度
